

弔辞

45回生 水野雅博

水野と申します。友人を代表して謹んで青木くんに告別の言葉を申し上げたいと思います。

私は中学・高校・大学と青木君と一緒に、さらにこの数年は毎週土曜に私の勤務先の藤村水泳教室で水泳指導を手伝ってもらっていました。

こうしてみるとずいぶんと長い間一緒に過ごして来たんだなと感慨深いものがあります。

さて、青木君と初めて会ったのは50年前、一橋中学2年生でした。秋に開かれる千代田区合同英語劇のイベントに出場するメンバーとして私もあなたも集められましたね。夏休みもずい分稽古をして一緒に舞台上がったんですよね。あなたは新聞記者の役でした。

その次に会ったのは九段高校に入学した四月。

まだプールそうじもされていない、どんよりとした緑色の水をたたえた室内プールでした。たいして泳げないのに入部して少し後悔していた私を尻目にあなたは毎日の練習を平然とこなし1年生ながら背泳のエースとしてよその高校にも知られる存在になりました。

その後は九段の歴代記録を幾度も塗り替え、東京都大会で6位入賞、16校対抗大会では準優勝を果たす大活躍を

見せ、対抗戦では800m自由形を背泳で泳いで相手チームを驚かせたということもありましたね。

高校を卒業してから、成蹊大学でまた一緒に共に水泳部にはいりました。そして部活動をしなから、九段高校と成蹊中学のコーチを兼務して多忙な大学生活を送りました。エントランスに飾られているカルマンガアに乗せてもらったのもこの頃でした。

夏休みは、九段の一大イベント至大荘での遠泳です。

戦前から続くこの行事には水泳部OBの大学生は強制参加。2週間泊まり込みでした。外房の守谷海岸は2、3年に1回は水温が低く遠泳には大変厳しかったのですが、あなたはどんなに冷たい水温でも弱音をはくことなく、ひたすら自分の仕事をこなしていました。

そして午前と午後の游泳訓練ばかりでなく、毎晩繰り広げられる飲み会も酒に弱いあなたや私には游泳訓練以上に大変でしたよね。

感受性豊かな学生時代をあなたと共に過ごせたことはかけがえのない財産だとつくづく感じます。今思うことはもっと話をしてあげれば良かったということです。

そして、直美さん。定年を過ぎてお二人で旅行に行かれましたね。北京、イタリアとフルムーンを楽しまれたと聞いています。素敵な思い出ができて良かったですね。

本当に突然の出来事で、直美さんの心中察するに余りあるのですが、

これからの生活は、立派に成長された三人のお子さんと二人のお孫さんが支えになってくれると思います。

青木君、本当にこれまでたくさんのお出でありがとうございます。

あなたの冥福を祈ります。

どうか安らかに眠ってください。

令和元年五月二十六日

青木の思い出と託されたこと

45回生 佐藤昌昭

青木がこんなに早く亡くなるとは思わなかった。僕たちの時代、最もタフで他校に威圧感を与えられたのが彼だった。現役時代、最後の16高は50mプールで行われた。そして、その最後の種目は8継で第一泳者は青木だった。彼は名だたる他校のエースクラスを押さえトップで戻ってきた。バックが専門だったけど、その時はクロールで泳いだ。まったくの素人な姿勢と強いキック。腕の動きと呼吸にはぎこちなさがあったけれど、体は水面近くの高いポジションで滑るように滑らかに進んだ。

あれから46年。僕たちは、人生をそれなりに一通り味わい定年を迎え、同期の水野が教室長を務めていたスイミン

グクラブで再び出会うこととなった。みんな相変わらずの調子のように思われたが、それなりに年をとった。

しかし、人生にはまだいくつかのステージが残されているように思われた。

そして、5月のある朝、突然水野からの連絡で青木が亡くなったことを知らされた。かけつけると、棺の中の青木は安らかだった。九段の水泳部も一游会も、「あとは頼む。」とおだやかな表情で語っているようだった。

彼が僕たちに託したこと……。ま、考えたところで、たぶん当たらないだろう。彼の性格を考えると、あまりにもいろんな可能性がありそうだから……。でも。一游会は現役へのバックアップとOB・OG相互の親睦が目的だから、シンプルに考えれば、①現役諸君は、とにかく練習に励み、しっかり勉強すること。②一游会員は、きちんと会費を収め、年間行事になるべく参加すること。この辺かもしれない。青木は今ごろ、天国のどこかで腕でも組んで、僕たちが何をしたいのか、ちよつと偉そうに見守っているに違いない。

青木へ。「僕らがそつちへ行くのは、もう少しあとになると思うから、しっかりとみんなを見守って気長に待っていてほしい。僕たちも君と過ごした日々を思い出しながら、できることをやって行くから。頼んだよ。」同期一同

青木さんとの思い出

古川忠宏（48回生）

高田君（51回生）から原稿を依頼され昔を思いだそうとしたところ、かなり記憶が薄れているのに愕然としました。

私が九段高校入学した時、水泳部は種目ごとに別れて練習しており私はバック陣に配属されました。当時の練習は平日の練習はアップ400m、メイン50m10本、ダッシュ1・2本といったとても軽い（当時はきつい練習だと思っていた）もので、ほぼ在校生の部員だけで練習を行っていました。

このとき青木さんは丁度高校を卒業し、浪人をされていたときで、バックの校内記録を持たれていつ近づきたい人といった感じでした。私が実際に青木さんに接したのは夏合宿でバック陣の指導で、青木さんと竹野さんが受け指導を持っておられたと記憶しています。

当時の合宿は野沢温泉プールで行っており、コースロープは軽石、食事の栄養補給は鯖の水煮といったことが強く印象に残っています。合宿の前の夏休みに入ってから、強化練習と称して練習量が多くなり（といっても5000m程度）、疲労を引きずったうえでの合宿はつらかったです。当然、バックの練習を延々としますので、首が痛くなり、特に苦手のキック練習はとても嫌だったのですが、プールサイ

ドの青木さんはいつも手でバタの動きをし、もつと強く打てというサインを送ってきます。このジェスチャーが私の中の青木さんの最も強いイメージです。

この合宿の後是对抗戦、16校へと続くのですが、速いと思っていた先輩方も他校の選手に歯が立たず、16校で入賞した青木さんはすごかったと改めて感心しました。また、青木さんは常には自信がみなぎり、ぶれないという点が印象的でした。

2年になってから私はロングに転向した事と練習形態が大きく変わりましたので、青木さんの指導を直接受けることはほとんどなくなりました。また、これ以降も青木さんはどちらかというと至大荘に力を入れ、私は大学時代も泳いでいた関係上、水泳簿の指導、自分の競技に力を入れていたので、接点は若干ずれていました。

私は2011年に会社を辞め、山形大学工学部（米沢）に移りました。最近、九段高校とのかかわりもほとんどなく、九段、一游会に関わられていた青木さんには頭が下がる思いでした。私の現在の仕事は主に企業との共同研究が主体ですので、一般にイメージする大学の教員とはかなり違う仕事の形体で、とにかく海外を含めた出張が多く、しかも資金集めをしなければなりませんので、宴席（公務員なので極力割り勘にしています）も日常的にあり、健康の維持に苦勞

しています。今年の春のドイツ、中国の出張を終えたときの体重が米沢に移る前の10kgオーバーまで増えてしまい、泳ぐと不正脈で出るようになり、あわてて減量に取り組みだしました。現在、何とか4.5kg減らしました。

体調維持のため、今年はOWS（オープンウォータースイミング）のレースに多めにエントリーしています。私は水泳を続けていなければとくに体を壊していたと感じるこのごろです。

最後に青木さんのご冥福をお祈りいたします。

青木俊行会長（45回生）を偲ぶ

51回生高田 明夫

2019年5月20日9:15に、45回生水野雅博さんから電話があり、青木会長の逝去を知りました。喪失感甚だしく、茫然としています。

5月16日の夜に電話をいただき、体調不良で法人九段を早退したこと、めまいが激しいため病院行きたいがどこかおすすめはあるか、といういままでにない切迫した問い合わせでした。私からは、脳神経外科、耳鼻科など総合的に見てくれて、できれば青木会長が受診したことがある総合病院を勧めました。青木会長からは、明日、縁ある慶応病院に行ってくるよ、というのが最後の電話になりました。

5月18日にLINEで前夜急遽、救急病院に行つて、脳梗塞の診断を受けたこと、2週間の治療が必要なので、5月27日に予定していた一游会幹事の打ち合わせ（6月9日の一游会総会の件）には出られない旨のメッセージでした。

1977年、私の水泳部入部が青木会長との出会いでした。背泳の後輩指導で、キックのときにピッチを上げさせるため、手をたたき、プールを歩きながら指導していた姿が印象的でした。当時、45回生が一游会現役支援の中心で、青木会長が前年度のHC、水野雅博さんがHC、佐藤昌昭さんが至大荘亭長という布陣でした。



現役は、3年生(49回生)の正山堯さん、内野誠さん、芳賀善之さん、2年生の丸若雅俊さんというスーパースターがインターハイを狙っており、すごい部に入ったものだと思っていました。400FRリレーで関東大会に進出したものの、インターハイは逃してしまいました。

1978年、一游会総会に初めて現役代表で出席したのですが、青木会長(至大荘亭長)、水野さん(前年度HC)らいつも指導を受けている先輩が5・60台の大先輩から、インターハイ出場を逃し、指導管理の面で叱責を受けて、お詫びしている姿に「あんなに懸命指導しているのに怒られるとは」と衝撃を受けました。

2012年に一游会幹事として、青木会長の下で副会長を拝命してから、濃密な7年間をご一緒させていただきました。63回生のメンバー中心に、会計、名簿、HP・FB、現役連携、至大荘助手支援、総会運営、一游誌発刊、OB戦など、担当者を分散して執行する組織体制の整備が行われました。青木会長自ら上の代の方々と綿密な連絡を取っていたとき、一游会の老若一体での組織運営は見事でした。

2016年に千代田区教育委員会による至大荘行事の視察があったとき(区議会などで行事存続可否が話題になっていました)、この統制された行事はだれが行っているかの質問に、「大学4年の亭長を頂点とした卒業生で構成する助

手集団があり、たとえ年長の私でさえ、亭長に従っている。

この組織が至大荘を支えている」と説明されていたのが印象的でした。

2017年には、一游会の会長に加え、公益社団法人九段の事務局に入り、90名の参加の至大荘90周年行事（養気閣）主幹として手腕を発揮されました。勝浦市長の参加要請、地元の守谷区関係者を元校長、元教諭も迎え、司会進行をされていました。

2018年には公益社団法人九段の事務局長に就任され、さらに至大荘行事が円滑に進めるように、様々な施策を亡くなる直前まで手掛けていました。至大荘については、①湯沸し器を設置し、浜にある子供用プールに温水をためて、低体温症対策を実施、②観海亭となりの竹やぶを伐採し、整地に着手、③観海亭にエアコンを設置、④76回古川勇氣さんと遠泳の記録用にドローン撮影を企画、と新機軸を次々と推進していました。

4月18日、若手助手を支援する59回佐々木玲子さん、61回高橋洋平さん、私の4人で会ったのが直接会話した最後になりました。助手の本番前訓練の法人九段の支援拡充について、打ち合わせしました。至大荘本番1期4泊5日の行事だけでは、大学生助手は指導経験不足になっていきます。指導レベルの向上を目指し、九段プールや土日、祝日を

使った守谷における訓練などを実施しています。至大荘宿泊は従来から法人九段にご配慮いただいていましたが、従来寄付などで賄っていた食費、交通費について、相談していました。基本方針を了承いただき、具体的な手順に入ることができました。

帰り際、OBの支援の在り方について、たとえば、和船のこぎ手は游泳部の教師陣が担っていますが、異動による漕ぎ手不足に備えて、OBも和船の訓練をして、いざとなれば、漕ぎ手として出勤しようか、という話をしていました。青木会長自身、江東区の「和船友の会」に入会し、訓練をしていると伺いました。私もぜひ一緒にさせてください、というお話をしたのが直接話した最後となり、その活動をご一緒にきなくなったのがとても残念です。

11月の予定している一游会の90周年を祝う会を主催いただき、100周年に向けた取り組みを語り合うのを楽しみにしていました。青木会長ならどんなことを展望していたか、思いを巡らしながら、諸活動が続けようと思っています。

青木さんを偲ぶ

79回生 長谷川貴史

青木さんと出会ったのは、2010年、至大荘で、僕が初めて亭長になった時でした。思い返すと、長くお世話になっていたことを、改めて実感いたしております。

人が少ない現状を知っていただき、それから何年も、浜指導を担当してくれました。

今年の一月も、「今年は助手として浜指導一週間参加します!!」と気合いのこもったメッセージをいただきました。そんな今年の至大荘に対する想いを伺うことができず、とても残念に思っています。

青木さんの至大荘を想う気持ちを少しでも引き継ぎ、至大荘が九段生にとって大事なものであり続けるよう、これからも努めて参りたいと思います。

青木さんのご冥福をお祈りいたしております。



顧問挨拶

おとべ あつし
乙部 淳

今年度より千代田区立九段中等教育学校に着任いたしました、乙部と申します。

15歳の春、先輩方に憧れ、**三男のシンクロ**のモデルにもなった川越高校水泳部に入部した時に私の競泳生活は始まりました。大学進学後、一度は競泳をやめる事も考えましたが、大学の水泳部の先輩に誘われ、競泳を続け、7年間の競泳生活は大学卒業と同時に一旦幕を下ろします。社会人になってからは6年間、競技からは離れましたが、一昨年から再び大会等に参加しております。

競技者として大成したわけでもない私がなぜ競泳を続けるのか。きっかけは高校の先輩のSNSでした。内容は30歳を過ぎた先輩が生涯ベストを更新したという内容でしたが、それを見て、自分にもできるのではないか、自分の限界に挑戦したいという思いが心の奥底から湧き上がってきました。

とはいえ、どこにも所属せず、一人で限界まで追い込むのは、よほど強い心の持ち主でもない限り難しく、先輩に都庁水泳部を紹介してもらい都庁水泳部に入部するに至りました。

た。

ふと思い返すと、高校で先輩に会わなければ競泳を始めていなかったかもしれません。大学で誘ってもらえなければ続けていなかったかもしれません。仲間と共に競泳をやっていたなければ、教員をやっていたければ都庁水泳部には入部してなかったかもしれません。縁という言葉で片付けてしまってもつたいないほどの出会いが溢れていました。

九段の練習や大会の様子を見ていて、OB、OGの方々が応援に来てくださる姿がとても印象的です。そんなOB、OGの方々がいるからこそ、素晴らしい伝統があるからこそ、恵まれた環境で練習が行える、顧問としてそのように感じています。どうか、これからも温かい目で見守っていただけるよう、よろしくお願い致します。

現役の選手には人と人との繋がりが今の自分の一部となっていることを忘れずにいて欲しいと切に願います。
全ての出会いに感謝。

新卒紹介

おかの
あらた
岡野 新

水泳に対する情熱を持ち、その力強く泳ぐ姿で、部を引っ張ってくれた新くん。岡野家次男として、入部当初から周囲の期待に違わぬ活躍っぷり。練習では誰より声を出し、十六校でもアツいレースを魅せてくれました！ そんな彼もお茶目で明るく、同期や後輩達からも慕われて。それでも、締めるところはしっかり締められる頼れる部長でした！ 彼ならO Bとして様々な面から部活を支えていつてくれることでしょう。これからの活躍にも期待しましょう！

かきうち
ゆうき
柿内 優輝

水泳部きつての高身長爽やかイケメン。彼の身長は果たしていつまで伸び続けるのだろうか。十六校では、800 m 自由形に出場し、その大きな体を活かした泳ぎで得点を獲得した。彼と話すときは、30 度ほど見上げなくてはならないので、首が疲れてしまうことは部内でも有名であった。殊に筆者の場合は身長が低かったので、30 度ではすまなかったことは。今となっては良い思い出である。

また、彼との会話からは、度々壮絶な経験や知識をうかがうことができる。筆者の経験や知識など、彼との会話においてはメガリザードン Y の前のキャタピーのようなものだ。大学でも更なる経験を積み、知識を増やしていつてほしい。

かとう
れおん
加藤 麗音

能面ポケモン。顔の白さと肩の弱さで練習を休むのが得意。今春の春合宿では、高橋晴喜 元水泳部顧問のものまねで部員を惑わした。「レオン、オーバートレーニング！ レオンの体力と暴拳がダウンした。」

先輩後輩、多くの人に慕われていた元副部長。いつもみんなを笑わせて部活を盛り上げていたので、部活にいないとすぐ分かり、サボりは必ずバレていた。十六校では、かなりの得点を稼ぎ、総合順位に貢献した。大学でも水泳を続けて、インカレ優勝を目指すそうだ。楽しみである。



きくた ななみ
菊田 七々海

菊田は、90 生唯一のマネージャーとして頑張ってくれました。菊田は美人で、しっかり者のお母さんといった感じで、水泳部員の面倒をよく見てくれました。

彼女は実は途中入部で、陸上部から突如、彗星のごとく現れました。なんと初めて来てくれたのは春合宿。部員の名前もまだ覚えていないのに、本当に偉い子です。

そんな菊田ももう大学生。しっかりした性格と可愛らしい容姿で、きっと充実した大学生活を送っていることでしょう。

くげ ゆうせい
久下 悠世

九段の誇る名 Br スイマー。後輩たちはもちろん、同学年や先輩たちまで Br を泳ぐ選手は皆、彼の泳ぎに憧れていたことでしょう。また水泳だけでなく、幅広く運動の出来る彼は、陸上でのトレーニングや体育祭でも活躍していました。

一方で、練習外の彼はクールな外見をもちながら、チームのムードメーカーでありました（この代はムードメーカーばかりな気がしますが笑）。いつも明るい彼は、みんなの人気者でした。特に、吉田ちゃんと仲が良かったようですね。

これからBrスイマーのスターとして、九段に遊びに来てほしいですね。

倉澤翼
くらさわ たすく

独特な世界観を持つ水泳部の巨匠。彼とは同じコースでよく泳ぎ、部活外でも仲良くしてもらっている。エンターテインナーとしての一面もあり、ある時はエンタリーミスにより自分より格上しかいない中でセンターコースを泳いだこともあった。そんな彼も今では某スイミングクラブで子どもたちに水泳を教える立場である。未来の倉澤翼の誕生日が楽しみだ。

蔵田 怜那
くらた れな

90 回生女子のエースであつたれなちゃん。入部当初から90 回生だけでなく、先輩後輩のことも泳ぎで引っ張ってくれました。一方、普段の水泳部ではみんなのいじられ役。いるだけで場が明るくなる、そんな存在です。そんな彼女なら、日本だけでなく世界でもきつと活躍すること間違いなし！ちなみに彼女、高三の夏からエストニアへ留学しており、ついこの前帰ってきたばかりです。留学一年間、お疲れ様でし

た。

董海韵
とう かいりん

マネージャーとして菊田さんと共にチームを支えてくれた董さん。その不思議な雰囲気と独特な感性からついた愛称は「妖精さん」でした。きびきびと動いて選手たちの練習をサポートする一方で、ミステリアスなゆるさで厳しい練習に励む選手たちに癒しを届けていたようでした。話をするとまったく予想外の返しが来て、とても楽しい妖精さんです。

また、何か相談すると違った角度から盲点を突いてくれるような頼りになる一面もありました。これからもぜひ九段を支えてくださいね。

日高 晴
ひだか はる

晴ちゃんと呼ばれ、同級生から慕われている彼女は、反射神経の鬼である。背泳ぎの反応速度がとても速い。それは競技かるたで培ったものである。彼女はとても努力家で、十六校では点を取るために自分のスタイルではない個人メドレーや長距離にも挑戦した。そんな彼女は辰巳に住んでい

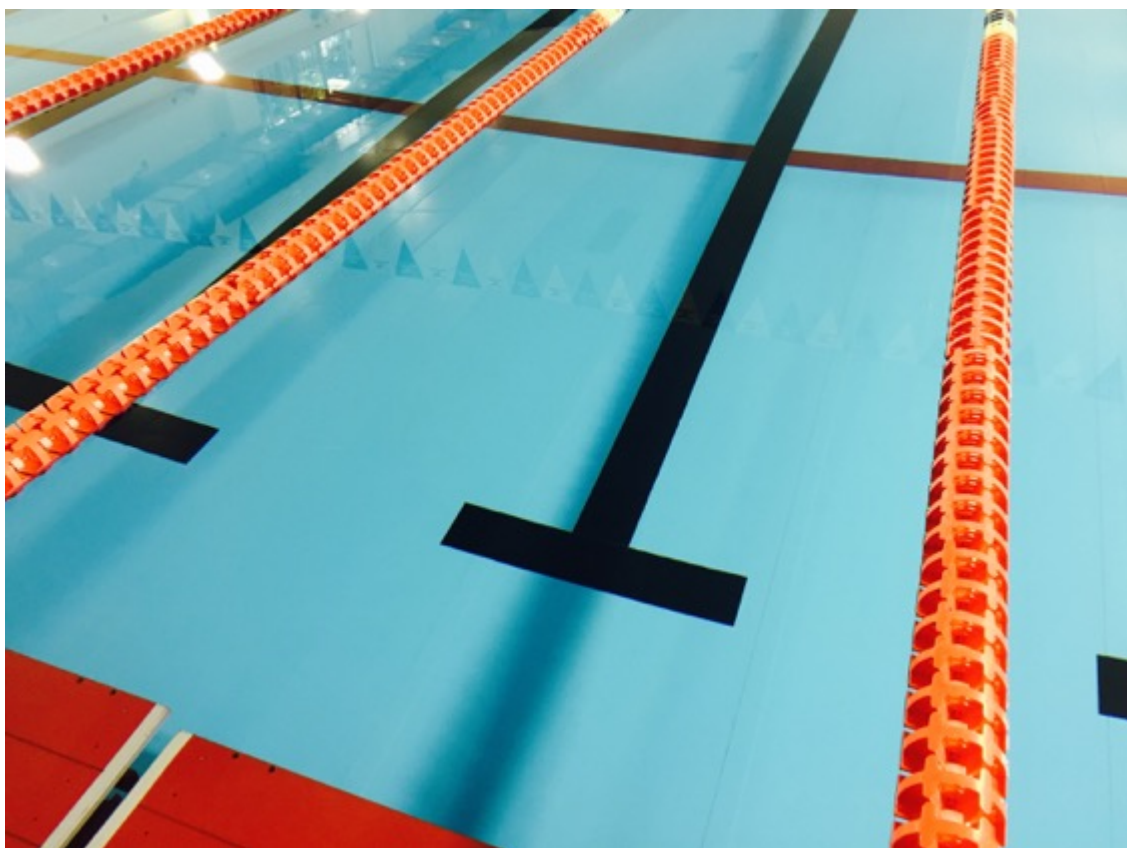
るので、これから役員として活躍してくれることを切に願っている。

よしだ ひろみ
吉田 大海

眉目秀丽、成績優秀、慶應ボーイといったら彼！女子にはファンがいて、男子からもかわいいと言われている。そんな彼はスポーツもできてしまう。水泳では平泳ぎを得意としており、部活で平泳ぎ組と切磋琢磨していた。彼は無意識に自分の力をセーブしてしまいがちだが、指摘されるとしっかり力を発揮し、我々の予想を超えてくるため、常に驚かされる。

そして、十六校は、200 m 個人メドレーで点を取ってくれた。彼は他の種目も泳げ、平泳ぎで抜いていく姿はカッコよかった。

大学では忙しい系思うが、彼が部活に行けば後輩たちも喜ぶであろう。たまにでいいから行ってあげてほしい。きっと、みんなのモチベーションも上がるはずである。



後期課程 部長挨拶

5年 山来 やまく まなび 真名美

いつも水泳部を支えてくださり、ありがとうございます。去シーズンに引き続き、今シーズンも部長を務めさせて頂くことになりました。成り行きでこうなったわけではありません。中等12回生で話し合い、更に部員にとって水泳部が居心地のいい場所となるように考え、副部長を2人にした3人体制でやっていきたいと思っております。例年にはない試みではありますが、12回生が引退するまでの一年間を最高のものになりたい、積み上げてきた一年間で出来なかったものを潰し、部員一人一人の成長だけでなく、水泳部全体として成長した姿をお見せしたい、このような思いからこの決断に至りました。ご理解頂ければと思います。

今シーズンの部Tは背中に【感謝】と綴ったシンプルなものにしました。この言葉は私が大切にしている言葉でもあります。あえて口の三角目を書きませんでした。それは部員一人ひとりを一面に見立て、自らの感謝の想いが加わることによって、それで初めて【感謝】という二文字が完成する。こういった意味合いを持たせたかったからです。感謝の気持ちの表し方は人それぞれだと思います。しかしその思

いを言葉にし、行動で示し、表現しなければ伝わらないと私は思っています。私は、水泳部が、感謝の思い常に忘れず、人と人とのつながりを大切に思える、そんな人たちの集まりでありたいと考えています。

いつも見守ってくださる一游会の皆様、先生方、コーチ、OB、OGの方々、大して実力もない私がこれまでやってこられたのは、皆様からいただく言葉一つ一つに励まされたからです。ありがとうございます。この感謝の思いを最後の一年間で存分に伝えていきたいと意気込んでおります。

去年培ったものを最大限に生かし、12回生7人で協力して、笑顔溢れる部活にしていけるよう努めてまいります。未熟な部分がたくさんあると思いますが、これからよろしくお願い致します。

後期課程 副部長挨拶

5年 齋藤 里佳 さいとう りか

これから副部長として、部長を支える立場となりました。わたしにできることは水泳の実績、大会でのタイムや練習の姿勢で魅せる、また、後輩へのアドバイスや部長のサポートなどです。

私はスイミングクラブに行っているため、部活に毎日顔を出すことは出来ませんが、全力で部長を支え、部活の競技レベルをあげたいと考えています。部活には速い人もそうでない人もいますが、みんながそれぞれ自分の目標を達成し、水泳に対する意識の向上やタイムが出ることの楽しさをみんなで共有できる部活にしたいです。

私ができることは少ないですが、その中で一生懸命やっていきますので、よろしく願います。副部長2人というなかなか珍しいスタイルですが、松井くんとも協力して部長を支えたいと思っています。まだまだ、未熟ですがよろしくお願い致します。

後期課程 副部長挨拶

5年 松井 吟 まつい ぎん

一游会の皆様、いつもご支援ありがとうございます。前年度より副部長を務めさせて頂いている、松井吟です。今年度は、前年度の部長である山来真名美、副部長の私と、新たに副部長として齋藤里佳を加えた体制となりました。昨年、我々中等12回生が10回生より水泳部を引き継ぎ、最高学年として1年を過ごしました。

今年、もう1年水泳部を引っ張っていくにあたり、昨年の反省点を見つめ直し、改善していくことが必要です。それにあたり、負担の大きい女子の部長を、より強い柱で支えなければならぬと感じ、副部長を2人体制にすることを決めました。この3人だけでなく、12回生全員で、今年の水泳部をこれから形作っていききたいと思っています。

昨シーズンの締めくくりとなった十六校、私は個人のレースでは全くもって納得いくようなタイムが出ず、不甲斐ない結果でした。しかし、レースを終えた後、良い結果を残せなかった私が非難されるようなことはなく（非難されても仕方がないような結果でしたが）、先生、OB、OGの方々、保護者の方々、水泳部の仲間に至るまで、全員が全員、

次のレースに向けてのポジティブな言葉をかけてくれました。これほどまでに並々ならぬ深い感情を持って自分を励ましてもらったことはありません。今回、私は3種目のリレーにも出場しました。今までの先輩方のタイムには遠く及ばないながら、共に戦う仲間の大切さを身をもって知りました。一緒に練習を重ねてきた仲間の頼もしさは、言葉では表せないほど強く、改めて水泳の楽しさを痛いほど実感しました。

このように感じさせてくれた方々に感謝の気持ちを伝え、水泳部のメンバーに恩返しができるような1年にし、絶対に悔いのない最高の水泳部を目指します。それぞれの部員も、自らの目標に向かい努力を重ねていくと思います。どうか今年度も、水泳部の応援のほど、よろしくお願い致します。

前期課程 部長挨拶

3年 藤沼 こなみ
ふじぬま

いつも水泳部を支えてくださっている方々、本当にありがとうございます。今年度、中学の部長を務めさせて頂くことになりました、3年の藤沼こなみです。

私は、中学生みんなが、高校生に色々な刺激を与えられるような中学生になることを目標にしています。部活での張り方や練習、大会の声出しはもちろん、片付けや大会での態度で、高校生の仕事を奪うつもりで積極的に動ける中学生になるよう、まとめていけるようにしたいと思います。そして、部長の真名美さんを支えていけるように頑張ります。

私たちが毎日不自由無く部活をしたり大会に出ることができるよう、指導や引率、役員をして下さる先生方や、コーチ、一游会の皆様、OB、OGさん、生活面で支えて下さる保護者の方々のおかげです。いつも本当にありがとうございます。まだまだ未熟で皆様には迷惑をお掛けしてしまいかもしれませんが中学生20名を引っ張っていけるよう日々精進して参りますので、今後ともご支援ご協力の程、宜しくお願い致します。

学生コーチ挨拶

90 回 生 久 下 くげ 悠 世 ゆうせい

一游会の皆様、日頃からご支援、ご声援ありがとうございます。現在、学生コーチを務めております、90 回生の久下悠世です。競技者として活動していた部活動での経験を生かし、後輩一人一人に技術指導を行っております。

今年度は山口先生を中心に、藤本先生、今年度一橋高校から赴任されてきた乙部先生の3名の顧問の先生方のもと、活動を行っております。また、今年度も木原稟太郎コーチを外部指導員としてお招きしております。これまで顧問でお世話になった先生方が異動された学校との合同練習や交流が定期的に行われ、様々な刺激を受けて練習に取り組んでいます。

現在、水泳部での活動は日曜日を除く月曜日から土曜日まで週6日で実施しております（前期課程は毎週水曜日OFF）。部員の泳力別にAコースからEコースに分かれて練習を行っています。また、今年3月末には例年通り静岡県県の河津で合宿を行いました。辛い練習の中でも選手同士で声を出し合いながら切磋琢磨し、心身ともに強くなることができましたと思います。さらに、今年度は、中学生の男子が

100 m バタフライ、女子が 200 m の背泳ぎでそれぞれ関東中学への出場権を獲得しました。

昨年度91 回生が全員退部したことで、92 回生（現5 年生）が水泳部を引っ張っていくという形になりました。6 年生がいない中、部長の山来真名美を筆頭に高校生同士でコミュニケーションを取りながら、部活動をまとめることができます。

水泳部は十六校大会を目標に各々練習に取り組み、チームとして一致団結して頑張っております。私はコーチとして部活動に関わっていく中で、声出しや泳ぎの指導を行い、より質の高い練習ができるようサポートしていけたらと思っています。練習自体はしっかり取り組めており、アドバイスしたことをしっかり泳ぎに反映させている選手が多いように感じます。また、例年より少ない人数の中で、積極的にコミュニケーションを取りながら練習に励んでいる姿が伺えます。しかし、部活動の開始時に部員が少なかったり、遅刻をしてくるのが以前より増えたと感じています。部活動での人数が少ないことは、他の選手の練習のモチベーション低下にも繋がってしまうと考えられます。そのため、一人一人が水泳部の一員であることを自覚し、競泳をやっているからこそ、時間に注意を払って行動してほしいと思います。

これからも泳ぎの面だけでなく、部活動全体の雰囲気もよりよくしていけるよう、選手達を見守っていきたいと思っています。

一游会の皆様、今後ともご支援、ご声援のほど、どうぞよろしく願います。



外部指導員挨拶

きはら
木原 稟太郎

外部コーチの木原です。今年で早くも5年目になりました。

今年の代は高3生が不在の中、高2生が部の最上級生になり、女子の山来が部長、副部長が男子の松井という体制でスタートしました。最高学年がいない若いチームで、また立ち上げ当初はマネージャーも不在。部長も部員も、そして私も不安を抱えてのスタートでしたし、夏まで色々課題や問題も多くあったことも否めません。

しかし、山来が辛抱強く、部の事を悩みながらも考え、引っ張っていき、少しずつ成長していったチームになりました。また春より、中学まで在籍していた小家がマネージャーとして部に復帰し、生徒たちをサポートしてくれました。

その成長の形として表れたのがやはり十六校でした。出場選手は男女5名ずつの10名。何とかリレーを組める人数という少数での出場でしたが、一人一人が先輩たちの伝統を引き継ぐがごとく、気持ちのこもった最高の泳ぎを見せてくれました。ベストを大幅に更新した者も多く、リレーも当初の想定より大健闘で、全員が個人、リレーで得点を挙げ

てくれました。本番に向かってまとまり始め、改めて九段の本番の強さ、集中力を感じるとともに、個人、チームとして、ここまで成長出来るものだと子供たちの能力に驚き、感心させられました。

このチームは来年もそのままでのメンバーで継続しますし、あと一年分成長できる伸びしろのあるチームです。今年の十六校で経験、得たものを糧に、さらに成長、いいチームになってくれることを期待します。

また、今年は、中学生の活躍が目立った年でもありました。1年生に有望な生徒が複数入部し、春に男女ともに個人とリレーで関東大会出場を目標に立てました。明確な目標が出来たことで、男子は高橋優斗、女子は中学部長の藤沼こなみが下級生をよくまとめ先導し、都中学まで熱心に練習に取り組み、都中学でも全員が非常に気持ちのこもった泳ぎを見せてくれました。

リレーは惜しくも届きませんでした。昨年度であれば関東大会に出場できるタイムで泳いでくれましたし、個人では2年の関根楓真、1年の覚井悠がベストを更新して関東大会出場を決めてくれました。2人とも都大会以上のステップを初めて踏み、貴重な経験をし、来年は全国中学も目標に、今年の経験と自信を生かして、さらにレベルアップすることを期待します。

このように例年にない形として歩んだ1年でしたが、今年は中学、高校ともに充実したシーズンを送ることができました。来年は十六校での躍進、中学、高校でも全国出場を目標に邁進していこうと思います。

山来が今年の部Tシャツに刻んだ「感謝」という言葉。先生方、コーチ、OB、OG、支えになっている周囲の方、そして保護者に。本当の意味での感謝を理解し、それを体現できる人間になり、より部として成長してほしいと願っています。

そして、これをお読みになっている一游会の皆さま、保護者の皆さまに私からも感謝の気持ちを伝えつつ、今後も九段水泳部を応援、サポート、ご支持いただけることを願っています。

観海亭 亭長挨拶

陸上競技部 OB すぎの 杉野 たいせい 泰清

今年度の観海亭亭長を務めました、九段中等7回生（卒業4年目）陸上競技部 OB の杉野泰清と申します。今年度の至大荘行事も無事5日間終わることができました。一游会の皆様にはこの場を借りてご挨拶させていただきます。誠にありがとうございました。

今年の至大荘は、生徒一人一人が自ら意志を持って動くことが出来ていました。生徒が今何をすべきことと向き合い、次への課題を持ち5日間を過ごしました。4日目の大遠泳では、水温が少し低かったものの、それまでの活動の成果を十分に発揮し泳ぎ切ることが出来ました。若手助手も生徒に向き合い大きな達成感を得ることができたと感じています。

今年度亭長を務めさせていただいて改めて感じたのは、色々な方のサポートに支えられて今の至大荘行事が成り立っていることです。中等卒業の若手助手が毎年増えていますが、若手助手だけではまだ未熟だと改めて実感いたしました。練習や本番に参加していただいたOB、OGの方、至大荘のために支援してくださる皆様の力なしでは成功し

ませんでした。この場を借りて感謝申し上げます。これからも至大荘を続けることにあたって、生徒の安全を守り、成長させるために現役一丸となって更に力をつけていきたい所存です。

100年目に向けて若手助手、OB、OGの方々、先生方、法人九段の方々と協力し、至大荘行事を続けていきます。今後ともご支援、ご協力いただけたら幸いです。何卒よろしくお願いします。

